

平成23年度「福井新々元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果 (平成24年3月末現在)

「福井新々元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成23年7月に掲げた施策・事業の実施結果について、次のとおり報告します。

平成24年3月

教育長 広部 正 紘

I 総括

1 福井型18年教育の推進

- ・ 平成24年度からの福井型18年教育の本格化に向けて、幼児教育、小中学校での少人数教育、英語教育の推進等の在り方を検討しました。
- ・ 「幼児教育プログラム策定委員会」において、今後の幼児教育の在り方を検討し、中間とりまとめを行うとともに、一部施策を実施しました。
- ・ 小学校1学年の35人学級を実施するとともに、本年度を目標年次とする「元気福井っ子新笑顔プラン」に基づき中学校2・3学年を32人学級としました。なお、同プランの成果と課題を検証した上で、次年度以降の少人数学級編制等の継続と発達障害等のある児童生徒の支援体制と習熟度別指導の充実を進めることとしました。
- ・ 「福井県不登校対策指針」に基づき、学校ぐるみでの組織的な不登校対策を進めたことにより、小・中学校ともに不登校の状況が改善しました。
- ・ 学習障害児への対応として、読字障害や計算障害などの学習ソフトを使用した指導を実践しました。
- ・ 子どもたちの夢と希望を伸ばすため、「私の夢カルテ」(小学校版・中学校版)を作成し、小学校4年生と中学校1年生すべてに配布しました。

2 児童生徒の確かな学力の育成

- ・ ICTを活用した「教育情報フォーラム」により、教員同士の意見交換や教材の共有化を進め、日常的に授業改善を行う体制づくりを進めました。
- ・ 県立高校において「授業力向上研修会」を39回開催したほか、外部専門家を交えて授業改善を進めました。また、高校生の授業満足度や学習意欲・学習状況等を把握するため、学力向上推進委員会において県立高校4校を対象とした調査を実施しました。
- ・ 小規模校の教育環境の充実を図るため、福井市では小学校3校で、敦賀市では小学校4校で、合同授業を実施しました。
- ・ 外部専門家等からなる福井県英語力向上推進会議において、本県の英語教育の在り方を検討し、中間報告をとりまとめました。
- ・ 「イングリッシュ・シャワー」や「土曜スクール」等により高校生が英語に接する機会を拡大したほか、高校生100人を米国ニュージャージー州に派遣するなど、高校生の実践的な英語コミュニケーション能力の向上に努めました。

3 県民の期待に応える高校教育の推進

- ・ 難関大学への進学を志望する高校1年生を対象とした「土曜チャレンジセミナー」を、本年度初めて開催しました。
- ・ 次世代人材育成会議での提言を基に、カリキュラム・副教材の開発や実践的な技術指導、高校生の長期企業実習等、産業界等との連携による職業教育の充実策を立案しました。
- ・ 若狭地区および坂井地区の高校再編の方向性を示した「県立高等学校再編整備第2次実施計画」を策定しました。また、若狭高校に、新たな普通科系専門学科である「文理探究科」を設置しました。

4 国体に向けた着実な準備と競技力向上

- ・ 平成30年の第73回国民体育大会に向けて、競技別会場地の選定を進めるとともに、競技会場として予定している県有施設については、整備に向けた調査や改修に着手しました。
- ・ 「福井県競技力向上対策本部」を設置し、計画的な選手強化に着手するとともに、福井国体では成年種別の中心選手となる中学・高校の有望選手を「チームふくい」に認定しました。

II 施策項目に係る結果について

- ・ 別紙「平成23年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)」のとおり

平成23年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>1 日本のモデル「福井の教育」 ◇ 日本の教育センター福井 ・県外からの教員の受入れと交流の促進 福井県の教育を学ぼうとする県外の教員等を積極的に受け入れ、「福井の教育」を全国に発信するとともに、交流を通して他県と切磋琢磨し、本県の教育力を一層高めます。</p> <p>〔 県外からの学校視察受入人数 (教育関係者) 110名 (平成22年度 102名) 〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>38県から855名の教育関係者が、小・中学校の授業・校内研修の参観や授業への参加等を通して、本県の教育の特長を視察しました。 視察者から、本県の児童生徒の授業に対する態度や教員の指導方法等について、高い評価をいただいています。</p> <p>〔 県外からの学校視察受入人数 (教育関係者) 855名 ※ 議会関係者等を含めると、1,172名 〕</p>	
<p>・「野外体験プログラム」の開発 小学校が2泊3日以上集団宿泊体験を実施できるように、青年の家等における体験活動プログラムを開発します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県立青少年教育施設において、プログラムの連携先の発掘を行うなどして、地域の特長を活かした体験活動モデルプログラムを作成しました。</p>	
<p>・「第一人者とふれあう体験プログラム」の実施 各界の第一線で活躍する県外のプロフェッショナルを招いて、人生経験や職業観などを子どもたちに話してもらい機会等をつくります。将来の夢や希望をもち、意欲的に挑戦しようとする児童生徒を育てます。</p> <p>〔 学習状況調査で「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」と答える生徒の割合 中学校 15% 〕</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>11月にアラスカの自然やオーロラの写真を撮り続けている写真家松本紀生氏を招いて「夢や希望を育てる講演会」を実施し、県内中学生425名および保護者150名が参加しました。 また、高校生のサイエンスへの意欲を喚起するため、12月に女性化学賞受賞者の相馬芳枝氏を、2月にノーベル化学賞受賞者の根岸英一氏を招いて「ふくいサイエンストーク」を開催しました。</p> <p>〔 学習状況調査で「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」と答える生徒の割合 中学校 -% (全国調査が実施されなかったため) 〕</p>	
<p>・いじめや不登校を早期に解消 「福井県不登校対策指針」に基づき、小・中学校において不登校の未然防止・初期対応・自立支援の3つの柱からなる対策を徹底し、いじめのない、子どもたちが笑顔で登校できる魅力ある学校づくりを進めます。</p> <p>〔 不登校者数 小学校130名、中学校610名 (平成22年度 小学校160名、中学校630名) 〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>不登校対策取組事例集の作成・配布や研修会の開催等を通じて、学校ぐるみでの組織的な不登校対策を進めた結果、不登校児童生徒数の減少が図られました。</p> <p>〔 不登校者数 小学校130名、中学校582名 〕</p>	

平成23年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・一人ひとりの教育ニーズに応じた特別支援教育の充実【部局連携】</p> <p>気がかりな幼児・児童・生徒に対して、学校が教育支援計画や指導計画を作成します。教育ニーズに応じた支援を行うとともに、特別支援教育センターや特別支援学校等による巡回相談を充実します。</p> <p>特に、小・中学校に在籍する学習障害のある児童生徒を対象に、ICT機器を活用した個別実践指導を実施し、有効な指導方法を調査します。</p> <p>また、勝山南高校の一部施設を有効活用するとともに、環境にも配慮した奥越地区特別支援学校(仮称)の整備を進めます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>保育カウンセラー等との連携の下、特別支援教育センター・嶺南教育事務所と各特別支援学校において、気がかりな幼児・児童・生徒に対する巡回相談(2,928件、17,620回)を行いました。</p> <p>また、学習障害等のある児童・生徒に対してICT機器による学習ソフトを活用した実践的な指導を行いました。</p> <p>奥越地区特別支援学校(仮称)の整備については、基本設計および実施設計を完了し、新校舎の建築工事に着手しました(3月8日起工式)。</p>	
<p>◇ 夢と希望を育てる学校</p> <p>・家族とともに進める幼児教育の充実【部局連携】</p> <p>幼児教育の実情を調査・分析し、家庭、幼稚園、保育所等の道しるべとなる「幼児教育プログラム」の策定作業に着手し、幼児期の子どもたちの成長を小・中学校における学習につなげます。</p> <p>また、幼稚園教諭・保育士の研修体系の一元化、幼児教育専門家の講演のほか、新たに私立幼稚園へ指導主事を派遣するなど着手可能な事業を前倒しで展開し、福井型18年教育の土台づくりを進めます。</p> <p>〔幼稚園教諭・保育士の双方を対象とした資質向上のための研修プログラム 平成24年度実施 50件 指導主事の派遣を受け入れる私立幼稚園 10箇所〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>平成23年8月に「幼児教育プログラム策定委員会」を設置し、今後の幼児教育の在り方についての協議を開始し、3月には中間とりまとめを行いました。</p> <p>また、10月には、幼児教育の現場や家庭の実態を明らかにするための「幼児教育実態調査」を実施しました。</p> <p>〔幼稚園教諭・保育士の双方を対象とした資質向上のための研修プログラム 平成24年度実施件数 24年度に入り確定 指導主事の派遣を受け入れる私立幼稚園 年度見込み 10箇所〕</p>	
<p>・子どもたちの夢と希望を伸ばし育てる教育の推進</p> <p>小・中学生が、職業調べや職場見学、職場体験で学んだことを「夢カルテ」に記録・保存し、進路について継続的に考えることにより、子どもたちの夢と希望を伸ばし育てます。</p> <p>〔学習状況調査で「夢や希望を持っている」と答える児童・生徒の割合 小学校72%、中学校46% (平成22年度 小学校70.7%、中学校44.1%)〕</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>学校関係者や大学関係者の協力を得て、「私の夢カルテ」小学校版・中学校版を作成し、10月に実施したキャリア教育研修会において県下すべての公立小学校4年生、中学校1年生に配布しました。</p> <p>また、効果的な活用を図るため、活用の手引きを使った説明会を開催しました。</p> <p>〔学習状況調査で「夢や希望を持っている」と答える児童・生徒の割合 小学校 -%、中学校 -% (全国調査が実施されなかったため)〕</p>	

平成23年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・県立高校の再編整備と魅力ある学校づくり 県立高等学校再編整備計画に基づき、坂井地区、二州地区および若狭地区において、高校再編を進めます。 また、新たな形の中高一貫教育校や普通科系専門学科等を検討します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。 若狭地区および坂井地区の高校再編の方向性を示した「県立高等学校再編整備第2次実施計画」を3月に策定しました。 また、嶺南地域における普通科系専門学科として、若狭高校に文理探究科を設置(平成24年4月開設)するとともに、新たな形の中高一貫教育校の在り方を検討するため、県外の中高併設型の先進校の視察を行いました。 なお、二州地区の高校再編については、全県下の普通科高校の見直しに合わせて議論します。</p>	
<p>・高校生の学力向上の推進 大学入試センター試験等の分析、生徒の授業満足度や学習意欲・学習状況の調査等に基づき、教材や指導手引書を作成するとともに、「分かる授業」づくりを進めます。 また、県立高校31校が企画する進学希望者に対する特別講座の実施や、就職希望者対象の実践的技術指導等の活動を支援し、「総合的な学力」の向上を進めます。 なお、「高校学力向上プロジェクトチーム」を設置し、県民の期待にこたえる高校教育のあり方を検討します。</p>		<p>〔成果等〕 目標にはいたりませんでした。 生徒の授業満足度や学習意欲・学習状況等を把握するため、学力向上推進委員会内に専門部会を設置したほか、4校で統一様式による調査を試行しました。 また、難関大学への進学を志望する高校1年生を対象にした土曜チャレンジセミナーを初めて開催したほか、教員の指導力向上のため、公開授業や授業研究会を39回実施しました。 さらに、「中高生英語力向上プロジェクトチーム」を設置し、英語の学力向上のため、これまでの施策の検証と新たな方策の検討を行いました。</p>	
<p>〔授業満足度 60% 難関10大学志望者(県立現役)570人 (平成22年度 545人)〕</p>		<p>〔授業満足度(4校試行) 50% 難関10大学志望者(県立現役) 550人〕</p>	
<p>・英語コミュニケーション能力の向上 英語教員の「指導力向上プログラム」を作成し、コミュニケーション能力の向上を重視した英語教育を推進します。 また、高校生を対象にALT等を活用した「土曜スクール」や海外語学研修等を実施することにより、英語を聞いたり話したりする機会を授業時間以外にも拡充します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。 外国語指導助手(ALT)の活用推進や英語教員の指導力向上に向けた施策の検討のため、11月に外部専門家等からなる「福井県英語力向上推進会議」を設置し、本県の英語教育の在り方を検討しました。 また、始業前などの時間を活用して継続的に高校生が英語に触れる「イングリッシュ・シャワー」を県立高校全校で実施するとともに、ALTを活用して少人数のディスカッション等を行う「土曜スクール」を5校で開催しました。 さらに、高校生100人を米国ニュージャージー州に派遣して英語コミュニケーション能力を向上させる海外語学研修を行いました。</p>	
<p>〔英語を続けたい生徒(高校3年) 44% (平成22年度 42%)〕</p>		<p>〔英語を続けたい生徒(高校3年) 44%〕</p>	

平成23年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・世界に通じるサイエンスの応用力の育成 「ふくい理数グランプリ」や「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」など福井県独自のプログラムにより、中・高校生の理数分野への知的探究心を伸ばします。 また、授業では扱わない科学実験や実習を行う「スーパーサイエンスクラブ」の強化や、全国科学オリンピック等への参加の促進により、高校におけるサイエンス教育を推進します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。 サイエンスの裾野を広げるため中・高校生を対象に開催している「ふくい理数グランプリ」の参加者が前年度の1.7倍に、高校生の全国科学オリンピック等への参加者も前年度の1.3倍にそれぞれ増加しました。また、全国物理コンテストにおいて金賞と銅賞をそれぞれ1名が受賞しました。 「スーパーサイエンスクラブ」を3団体(金津高、敦賀高、美方高)指定したほか、若狭高校が新たにスーパーサイエンスハイスクールに指定されました。 さらに、高校生のサイエンスへの意欲を喚起するため、女性化学賞受賞者の相馬芳枝氏とノーベル化学賞受賞者の根岸英一氏を招いて「ふくいサイエンストーク」を開催しました。</p>	
<p>〔全国科学オリンピック等の参加者数〕 110人 (平成22年度 100人) 課題研究発表会の参加者数 100人</p>		<p>〔全国科学オリンピック等の参加者数〕 134人 課題研究発表会の参加者数 137人</p>	
<p>◇ 次を目指す教育の充実 ・教員の授業力向上 個々の教員が作成した優れた教材や指導案をICTを用いて集約・共有する「教育情報フォーラム」を整備します。授業での活用や教員同士の意見交換を活発化し、日常的な授業改善を促進します。 また、公開授業と授業研究会を組み合わせることで、「授業力向上研修会」を拡充することにより、各教科の専門性の向上を図ります。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。 10月から教育研究所のウェブページにおいて「教育情報フォーラム」の運用を開始し、優れた学習指導プランの共有化等、日常的に授業改善を行う体制づくりを進めました。 また、県立高校において、「授業力向上研修会」を39回開催したほか、校内研修のあり方について外部専門家と4校の校長等が意見交換を行うなど授業改善を進め方を検討しました。</p>	
<p>〔学習指導プランの登録数〕 小学校700件、中学校420件、 高校 200件</p>		<p>〔学習指導プランの登録数〕 小学校756件、中学校486件、 高校 202件</p>	
<p>・教員の資質能力の向上【共同研究】 教育研究所と福井大学の研修・講座の融合、現職教員の修士化や独自の教員育成システムの構築など、福井大学と教育研究所の融合による教員の資質能力向上の仕組みを、全国に先駆けてつくります。 また、校種を越えた人事交流を積極的に進め、教員の資質能力向上と学校組織の活性化を図ります。</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。 教員研修の在り方検討会を開催し、教員の資質能力向上のための研修の見直しの基本的な考え方を取りまとめました。 また、新任教頭のコーチング力等を高めるため、教育研究所が行う新任教頭研修と福井大学が行う教員免許更新講習との連携を進めました。 さらに、教育研究所が行う初任者研修および5年・10年経験者研修について、福井大学教職大学院のノウハウを取り入れ、平成24年度から学校での実践研究を中心としたプログラムへと見直します。 校種を越えた人事交流については、小・中学校と県立学校間の人事異動を積極的に推進します。</p>	

平成23年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・小規模校の統合の支援と教育環境の充実 小規模校の統合により生じる遠距離通学の負担の軽減、複式学級に在籍する児童の学習支援を通して、学校規模に応じた小中学校の教育環境を充実します。 また、小規模小学校において、近隣小学校との合同授業など多様な授業形態を実現し、児童が競争心をもって切磋琢磨する機会を増やします。</p> <p>学習状況調査で「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがありますか」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」の2項目の平均値 小規模小学校（児童100人以下）の上記2項目の平均値 47%</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>公立小・中学校の適正規模化を進めるため、大野市蕨生小学校と富田小学校の平成24年4月の統合に伴うスクールバスの購入について、助成を行いました。 また、小規模校の教育環境の充実を図るため、福井市（国見小・長橋小・殿下小）および敦賀市（常宮小・西浦小・東浦小・赤崎小）において合同授業をそれぞれ2回実施しました。</p> <p>（開催状況） 福井市：11月8日（火）、2月15日（水） 敦賀市：1月24日（火）、2月15日（水）</p> <p>学習状況調査で「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがありますか」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」の2項目の平均値 小規模小学校（児童数100人以下）の上記2項目の平均値 —% （全国調査が実施されなかったため）</p>	
<p>・個性や能力を最大限に伸ばす総合的な教育体制の確立 「元気福井っ子新笑顔プラン」に基づく本県独自の学級編制を引き続き実施するとともに、24年度以降のプランの充実に向けて検討を行います。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>本年度を目標年次とする「元気福井っ子新笑顔プラン」に基づき中学校2・3学年を32人学級とするとともに、小学校1学年の35人学級を実施しました。 また、同プランの成果と課題を検証し、次年度以降の方針を策定するため、全校アンケート（7月）や学校訪問（170校）を行うとともに、「笑顔プラン検証・検討委員会」を開催（8月、9月、12月）しました。 その結果、学習面・生活面において少人数教育の効果が認められたことから、24年度以降もこれまでの少人数学級編制等を継続するとともに、発達障害等のある児童・生徒の支援体制や中学校での習熟度別指導の充実を図ることとしました。</p>	

平成23年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・「白川文字学」を活用した漢字教育のレベルアップ</p> <p>すべての小学校で、「白川文字学」を活かした漢字学習の副読本による授業を実施します。全学級担任教員が参加する公開授業や研究会を地域の拠点校で開催し、白川文字学を活用した漢字学習の拡大と質の向上を図ります。</p> <p>また、漢字学を専門的に指導できる教員の養成講座を開設するなど、より質の高い漢字教育を目指します。</p> <p>さらに、子どもから大人までの世代を対象にした「白川文字学」の講習会等を開催するとともに、出前講座により地域における漢字文化の普及活動を行います。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>「白川文字学」を活用した漢字学習については、4月から県が作成した副読本による授業をすべての小学校で行っています。このため、県内4ブロックに漢字教育推進拠点校(8校)を設置し、漢字教育の在り方に関する研究を進めるとともに、域内の小学校教員が参加する公開授業や研究会を計65回開催しました。また、すべての学級担任教員が、公開授業や研究会、教育研究所等の研修講座に参加するなどして、「白川文字学」を活かした漢字学習の指導力の向上を図りました。</p> <p>立命館大学との連携による「福井県漢字学指導者養成講座」では県内教員を中心とする43名が漢字学の専門的な知識を学び、漢字教育の質の向上を図りました。</p> <p>幅広い世代を対象にした「白川文字学」の漢字講座やパネル展等には、大人から子どもまで3,800人を超える参加が得られました。</p> <p>また、平凡社から出版した「漢字解説本」は5刷を重ね、これまでに3万部が発行されています。</p>	
<p>〔漢字教育推進拠点校における公開授業等への参加者数 1,800人(全学級)〕</p>		<p>〔漢字教育推進拠点校における公開授業等への参加者数 1,874人〕</p>	
<p>・新聞を活用した教育活動の推進</p> <p>「こどもコラムコンテスト」の開催、新聞社と共働した教員向けのセミナー・ワークショップの実施など、全小中学校において新聞を活用した教育活動を推進します。</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>12月16日に「新聞を活用した教育研修会」を実施し、県内すべての小中学校から教員約280名がパネルディスカッションと新聞社によるワークショップに参加しました。</p> <p>また、県内の小中学校の児童生徒を対象とした、新聞記事をもとに自分の意見や考えを読者に伝える文(コラム)のコンテストには、対象となる児童生徒の約6割にあたる24,024名の応募がありました。</p>	
<p>〔学習状況調査で「新聞やニュースに関心がある」と答える児童・生徒の割合 小学校 28%、中学校 24% (平成22年度 小学校26.0%、 中学校22.4%)〕</p>		<p>〔学習状況調査で「新聞やニュースに関心がある」と答える児童・生徒の割合 小学校 -%、中学校 -%〕</p>	
<p>2 技術と戦略で勝ち抜く福井の産業 ◇ 若者に雇用と所得を</p> <p>・地域を担う産業人材の育成【部局連携】</p> <p>職業系高校の公開授業や学校評価への企業人の参加、カリキュラム作成への助言など、産業界・企業と共働して人材育成を行う体制づくりを検討します。</p> <p>また、県の試験研究機関や企業等と連携した技術指導を強化し、職業系高校生の実践的な技術力を育成します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>次世代人材育成会議での提言に基づき、カリキュラム・副教材開発等への企業人の参画や実践的な技術指導の実施、高校2年生の長期企業実習の開催等、平成24年度から産業界等と連携して行う職業教育の充実策について検討しました。</p> <p>また、本年度、職業能力開発協会や企業と連携し、工業系高校では旋盤技能研修など実践的技術の習得を、農業系・商業系高校では新商品の開発を行いました。</p>	

平成23年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>3 新しい方向をひらく農林水産業 ◇ 食卓に「福井の食」(地産地消、地産外商)</p> <p>・毎日おいしい地場産給食の実現 【部局連携】 学校給食会や農林水産部との連携により、地場産農水産物を活用した献立の開発を行い、おいしい学校給食を提供します。また、県内の2地域が相互に交流し、地元の特産物や郷土料理等を紹介したり、他地域の食・食文化について学んだりする機会を充実します。</p> <p>〔学校給食をおいしいと感じる子どもの割合 62.5%〕</p>		<p>〔成果等〕 目標にはいたりませんでした。</p> <p>子どもたちから好評を得たメニューを学校給食調理員が相互に紹介し合う「調理従事者研修会」や、ふるさと知事ネットワーク参加県同士が交換した郷土料理のレシピに基づいて、互いの給食メニューを提供する「学校給食交流事業」とともに、児童生徒と学校栄養士が共同で開発したオリジナルメニューを発表し合う「学校給食調理コンテスト」を8月に実施し、地場産農水産物を活用した多彩な献立情報を交換しました。また、県内2地域の児童がお互いの特産物や郷土料理を紹介したり、食・食文化について学ぶ交流学習を行いました。</p> <p>〔学校給食をおいしいと感じる子どもの割合 60.3%〕</p>	
<p>4 国体めざす県民スポーツ、生活のなか に楽しむ県民文化 ◇ 飛躍する福井のスポーツ ・第73回国民体育大会の開催に向けた準備</p> <p>「第73回国民体育大会準備委員会」に新たに輸送・交通、宿泊・衛生、式典の各委員会を設置するとともに、市町や競技団体から意見を聴取しながら、競技別会場の選定や審判員等の養成開始、広報・PRなど開催準備を進めます。</p> <p>〔福井国体に対する参加意欲 67% (平成22年度 65.1%)〕</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>「第73回国民体育大会準備委員会」に「輸送・交通」、「宿泊・衛生」、「式典」の各検討会を設置し、国体開催に向けた体制を整備するとともに、競技別会場の選定を第三次まで進め、38競技48種目中、37競技44種目について決定しました。また、審判員等の養成については、現状を踏まえた継続的な計画を策定し、養成事業を開始するとともに、広報・PRについては、各種イベントへ新たに国体PRブースやスポーツ体験コーナーを出展するとともに、広報紙の発行や出前講座の開催を行うなど活動を充実・強化しました。</p> <p>〔福井国体に対する参加意欲 -% (県政マーケティング調査が実施されなかったため)〕</p>	
<p>・世界をめざすアスリートの養成 「福井県競技力向上対策本部」を設置し、競技団体へ指導・助言を行うことにより、ジュニアから成年までの一貫した選手育成・強化を進めます。</p> <p>〔国体総合成績(24年度までに) 20位台 (平成22年度 34位)〕</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>昨年9月に「福井県競技力向上対策本部」を設置し、第73回国民体育大会に向けた計画的な選手強化に着手しました。また、ジュニアから成年までの一貫した選手育成・強化を進めるため、10月に、福井国体時に成年種別の中心選手となる中学・高校の有望選手に「チームふくい」の認定証を交付するとともに、競技別に強化合宿を実施しました。</p> <p>〔国体総合成績 30位〕</p>	

平成23年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・県有施設の整備 福井運動公園をはじめとする県有施設については、国体の開催と将来の利活用を考えながら、着実に改修等を進めます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。 県有施設の整備にあたっては、国体の開催と将来の利活用を考慮し、福井運動公園の基礎調査、ホッケー場の人工芝の張り替え(24年6月完成予定)、およびクレール射撃場再開に向けた環境対策基本計画の策定を行いました。</p>	
<p>・平成24年度全国高等学校総合体育大会の開催に向けた準備 新潟県を中心に北信越5県で行う平成24年度インターハイに向けた準備を、県高体連、競技開催市町とともに進めます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。 平成24年度インターハイについては、本県でバドミントン、なぎなた、体操・新体操、ホッケーの4競技が開催されるため、県高等学校体育連盟事務局内に設置された福井県実行委員会において、県高体連、競技開催市町(福井市、鯖江市、永平寺町、越前町)とともに準備を進めました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>開催種目 バドミントン(福井市・永平寺町) なぎなた(福井市) 体操・新体操(鯖江市) ホッケー(越前町)</p> </div>	
<p>◇ 家でも外でも毎日運動 ・すべての世代が楽しめるスポーツの推進 県民スポーツ祭の中に新たに親子スポーツ体験イベントを行い、県民誰もが気軽にスポーツを楽しめる機会を提供します。 また、様々なスポーツに対応できる総合型スポーツクラブの設立・育成を支援します。県民にスポーツを広めるとともに、冬季に屋内で活躍できるニュースポーツを紹介するなど、スポーツ活動を啓発します。</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。 県民スポーツ祭で、新たにアーチェリーなど11競技の親子スポーツ体験イベントを行い、454人の親子が参加しました。 また、年間を通して活動できるニュースポーツの体験など、気軽にスポーツを楽しめる機会を提供しました。 また、総合型スポーツクラブの設立・育成への支援により、平成23年度に新たに3クラブが創設され、14市町・23クラブが活動を行いました。 そのほか、地元の企業への出前講座などを通じて、屋内で活動できる手軽なスポーツの紹介を進めました。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>県民のスポーツ実施率 37.5% (平成22年度 35.0%)</p> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>県民のスポーツ実施率 —% (県政マーケティング調査が実施されなかったため)</p> </div>	

平成23年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>◇ 生活に福井の文化 ・国宝・重要文化財、県文化財の指定をスピードアップ</p> <p>県民の近代和風建築や白山信仰関係文書の詳細な調査、県内各地に残る貴重な日本庭園などを県文化財保護審議会委員が直接現地調査を行い、各種文化財の県指定に向け、歴史的・学術的な価値を明らかにします。</p> <p>また、国に対して重要文化財等の指定を積極的に働きかけ、保存と活用を促進します。</p> <p>〔 国宝・重要文化財・県指定文化財の新規指定件数 8件 (平成15年～22年度の平均 7件/年) 〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>近代和風建築調査に関する報告書の作成や、白山信仰関係文書の継続的な調査を実施し、有形文化財の価値を明確にする調査を実施しました。</p> <p>また、名勝庭園や美術工芸品について、県文化財保護審議会委員の現地調査や文化庁調査官の招聘など指定に向けた情報提供を積極的に実施しました。</p> <p>引き続き、無形民俗文化財について「祭り・行事」調査や国・県指定が有力な名勝庭園の特定測量調査等を新たに実施し、県内の文化財の価値を明らかにしながら、国・県指定のスピードアップを図ります。</p> <p>〔 国宝・重要文化財・県指定文化財の新規指定件数 10件 〕</p>	
<p>・子どもたちが一流の芸術・文化に触れる機会をさらに拡充</p> <p>子どもたちが学校・地域・家庭において身近に芸術・文化活動に参加できる機会を拡大します。</p> <p>また、文化施設における本格的な鑑賞体験、プロの奏者による弦楽器指導など一流のアーティストの指導を受けられる場を増やすなど、子どもたちが本物の芸術・文化に触れる機会を拡充します。</p> <p>〔 一流の芸術・文化を体験する子どもの数 67,500人 (平成22年度 65,182人) 〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>学校や地域において、子どもたちが芸術・文化に触れる機会を充実するとともに、プロの弦楽器奏者の学校(社北小、朝日中など)への派遣をはじめ、一流アーティストから子どもたちが直接指導を受ける機会を拡充しました。</p> <p>これにより、68,531人の子どもが、一流の芸術・文化を直接、鑑賞・体験することができました。</p> <p>〔 一流の芸術・文化を体験する子どもの数 68,531人 〕</p> <p><内訳></p> <p>(1) 学校等において芸術文化を鑑賞・体験 38,068人 ふれあい文化子どもスクール、子ども鑑賞シート、ちびっこコンサート、ふれあいミュージアムほか</p> <p>(2) 地域において芸術文化を鑑賞・体験 21,526人 伝統文化子ども教室、ヤングアートフェスティバルほか</p> <p>(3) 活動内容を発表する機会 7,364人 ふくい子ども文化祭、県高等学校総合文化祭</p> <p>(4) 芸術文化のレベルアップを図る機会 1,573人 ヤング・アート・キャンプ、弦楽器奏者育成ほか</p>	

平成23年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・歴史博物館および美術館の充実 県立歴史博物館において「泰澄」をテーマに白山文化の優れた歴史遺産の調査研究を進め、次年度以降の特別展において、その成果を紹介しします。 また、館蔵資料等を活用し、子どもたちが本県の歴史・民俗を学ぶ体験学習や、小・中学校において学芸員と教員の協働による出前授業を実施しします。 県立美術館においては、鑑賞と創作を合わせて体験できる「キッズミュージアム」や、小・中学校等に館蔵作品を展示して学芸員が解説を行う出前鑑賞会を実施しします。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。 県立歴史博物館において、泰澄ゆかりの仏像をはじめ、白山文化の歴史遺産についての調査研究を進めるほか、石川県や白山市と連携し、白山麓の民俗芸能が一堂に共演する「ふるさと祭り」を開催しました。平成24年秋に開催予定の「泰澄ゆかりの寺(仮称)」において、成果を紹介しします。 また、小・中学校の児童・生徒を対象に、博物館での体験型授業や、学芸員が館蔵資料とともに学校に出向く出前授業を実施しました。 県立美術館においては、夏休みに親子で鑑賞・創作を体験するキッズミュージアムを開催したほか、学芸員が館蔵作品を学校で展示・解説する授業を行いました。</p>	
<p>・「福井ふるさと文学」の推進 県立図書館を核として、県民のふるさと文学に対する意識の高揚や文芸活動の活発化につなげる「福井ふるさと文学」の推進に向けた基本構想をまとめます。</p> <p>〔ふるさと文学の貸出冊数 5,000冊 (平成22年度 4,438冊)〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。 本県ゆかりの作家の生き方や業績などを広く紹介するため、県立図書館内のスペースを活用した「福井ふるさと文学館(仮称)」の開設を目指して、県外の先進地視察の成果をもとに、基本的な方向性をまとめました。 また、ゆかりの作家の図書や直筆原稿等を収集し、企画展を開催(4回)しました。</p> <p>〔ふるさと文学の貸出冊数 5,448冊〕</p>	
<p>・「こども歴史文化館」事業の充実 紙芝居の達人による紙芝居展の開催、小浜藩初代藩主 京極高次・お初夫妻等展示人物の追加などを行い、郷土を愛する子どもを育てる「ふるさと教育」の拠点としてさらに充実を図ります。</p> <p>〔「こども歴史文化館」の来館者数 30,000人 【チャレンジ目標 33,000人】 (平成22年度 29,370人)〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。 京極高次・お初夫妻、松旭斎天一および内藤秀信を展示人物として追加したほか、特集展示(3回)や、紙芝居、科学おもちゃ教室等(のべ117回)を開催するなど、子どもたちのふるさと教育の拠点として充実を図りました。</p> <p>〔「こども歴史文化館」来館者数 33,117人〕</p>	

平成23年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>5 若者のチャレンジと女性の活躍を応援 ◇ 子どもがたくさん、家族を応援 ・「放課後子どもクラブ」を小学校6年生まで拡充 地域の実情に合わせて「放課後子どもクラブ」を実施し、子どもの安全・安心で健やかな活動場所を確保します。 また、6年生までの希望する児童の受け入れが進むよう、市町を支援します。</p> <p>〔6年生まで受け入れる小学校区数 190校区 (平成22年度 183校区 (90.1%))〕</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>地域の実情に合わせた「放課後子どもクラブ」の実施により、子どもの安全・安心で健やかな活動場所の確保に努める市町を支援しました。</p> <p>〔放課後子どもクラブを全小学校区(202校区)で実施 6年生まで受け入れる小学校区数 188校区 (93.1%) (5校区増)〕</p>	
<p>6 日本一の安全・安心(治安向上から治安実感へ) ◇ 治安実感プログラム ・安全教育の徹底と防犯活動の支援【部局連携】 教職員等に対する防犯教室講習会の開催、青色灯をつけた自動車の巡回による見守り活動の充実など、登下校時を含めた子どもの安全確保や防犯活動を支援します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>小・中・高校において、より実践的な防犯教育が実施できるよう各学校の安全管理・安全教育的責任者や保護者、地域関係団体の320人を対象に防犯教室講習会を8月に開催し、学校・家庭・地域の連携強化に対する意識を向上させました。 また、すべての中学校区において青色灯を付けた自動車による学校周辺や通学路等の巡回指導を実施し、見守り活動の充実に努めました。</p> <p>〔主な安全活動支援 ・青色灯自動車による巡回パトロール 74中学校区で実施(週1回)〕</p>	
<p>◇ 地震・異常気象・災害などに迅速対応 ・子どもを守る耐震化の促進 児童生徒の学習の場、地域住民の応急避難場所となる小・中学校施設の耐震化を促進し、災害時の安全・安心を確保します。</p> <p>〔耐震補強工事 15棟 (平成22年度 47棟 (23年度への繰越を含む))〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>小・中学校施設の耐震化を促進するため、耐震補強工事について県独自の補助制度により、市町の負担軽減を図りました。 今後も、市町への働きかけを一層強化し、耐震化を促進していきます。</p> <p>〔耐震補強工事 40棟(平成24年度への繰越を含む)〕</p>	